

1.1. 結城市水道ビジョン策定の主旨

結城市の水道事業は昭和40年に給水を開始し、その後、水需要の増加に対応した拡張事業を進め、現在ではほぼ市内全域に給水できるようになりました。

水道施設は、1960年代の高度成長期に集中的に建設され、およそ40年を経過し、多くの施設が更新時期を迎えようとしています。

一方、厚生労働省は、平成16年6月に「水道ビジョン」を策定し、今後の水道に関する重点的な政策課題（「安心」、「安定」、「持続」、「環境」、「国際」）と具体的な施策及び方策、工程等が示されました。また、各水道事業者に対して、自らの事業を取り巻く環境を総合的に分析した上で、経営戦略を策定し、それを計画的に実行していくための「地域水道ビジョン」の策定が推奨されています。

これらを背景として、結城市では、主に施設の老朽化や多く発生する赤水に対応するため、水道事業の将来のあり方について、平成18年度に施設全般の基本計画の検討を行いました。この基本計画は、計画期間を中期（H19～H28）、長期（H29～H38）とし、「水道施設の再構築と赤水発生軽減」を重要テーマとしております。

今回、この基本計画をもとにした「結城市水道ビジョン」を策定しました。結城市水道ビジョンは、「将来につなげる結城の水道」を将来像に掲げ、水道事業の中長期にわたる水道の将来目標を示し、事業を進めるにあたっての方向性を明らかにしたものです。今後、このビジョンをもとに、透明性を維持した施設整備等の計画策定や実施を行ってまいります。また、市民ニーズや社会情勢等の変化を踏まえ、適宜、事業の評価や見直しを行い、お客様により良い水道サービスの提供が出来るよう努力してまいります。



本町浄水場(昭和40年完成)

1.2. 水道ビジョンとは

平成 16 年 6 月 1 日、厚生労働省において、水道に関わる全ての人々の間での水道の将来についての共通認識形成を目指した「水道ビジョン」が策定されました。この水道ビジョンは「世界のトップランナーを目指してチャレンジし続ける水道」を基本理念とし、わが国の水道の現状と将来見通しを分析・評価し、水道のあるべき将来像についてすべての水道関係者が共通目標を持って、その実現のための具体的な施策や工程が明示されています。特に、水道ビジョンの目標達成には、水道の利用者を含む様々な関係者の参加が不可欠とされています。

図表 1-1. 水道ビジョンフロー



図表 1-2. 関係者の参加による目標の達成

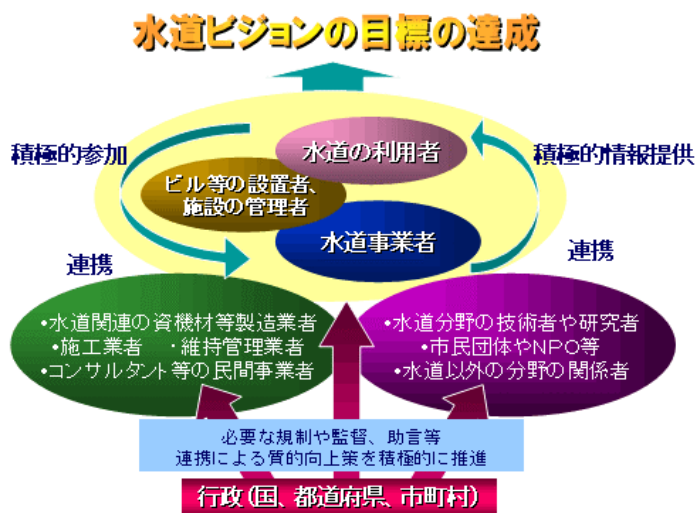


図 1-1、1-2 共に日本水道協会 HP より転載